冠水橋　～洪水時には橋面が水没する堤外地に設けられた橋～

荒川流域にはさまざまな冠水橋があり、現在も渡ることができます。

荒川に架かっていた旧久下橋

都幾川に架かる稲荷橋

高麗川に架かる若宮橋

冠水橋とは

冠水橋は、「洪水時には橋面が水没する堤外地に設けられた橋」のことです。もちろん平常時は、生活道路の一部として通行に利用されています。これに対して増水しても冠水しない通常の橋は、永久橋、または抜水橋と呼ばれています。

冠水橋の呼称は地方によってさまざまで、関東の久慈川では「地獄橋」、四国の四万十川では「沈下橋」、岡山県の旭川の「流れ橋」、京都府の「潜没橋」などがあります。

荒川流域には多くの冠水橋がありますが、そのなかでも最も長く交通量も多かった久下橋（荒川本流）は、2003（平成15）年、新しく永久橋となって開通しました。冠水橋は、治水上の安全や、広域交通の発達による交通量の増加などのため、永久橋へと架け替えられてきました。

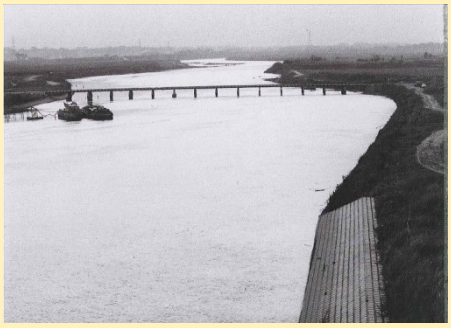
冠水橋は、流木等による橋脚の破損を最小限に防ぐため、欄干を設けない等の工夫がされています。また、川面に近い位置に架けられているため、親水性や利便性、観光面での注目も集めています。

▶ 笹目橋と渡船

旧笹目橋は、大雨などで水位が上昇すると水面下に沈む冠水橋と呼ばれる造りでした。この橋は、上部構造が木材でできていたため、人車の往来、風雨、大雨での冠水などにより木材が傷んでくると、補修が必要になりました。

1962（昭和37）年には、補修のために板材を剥がしたことで通行できなくなったため、かつての「早瀬の渡し」を思わせるような渡船が一時的に復活しています。この渡船は、埼玉県の管理で、定員6名、午前7時から午後6時まで無料で営業しました。

旧笹目橋は、1964（昭和39）年に東京五輪に合わせて新笹目橋が完成してその役目を終えるまで、ガタガタ床面を鳴らしながら人々の往来、流通を支えていました。



冠水橋だった頃の笹目橋

▶ 鋼製の流木除けのある冠水橋

原馬室橋は、コンクリート桁橋（鋼橋脚）、全長約60m、幅３mの橋です。

2001（平成13）年９月の台風で先代の橋が流出し、2002（平成14）年に復旧されました。冠水橋としては低水面からの高さがあり、上流側に大きな流木よけがあるのが特徴です。

また、馬室小脇の道を原馬室冠水橋へと向かう途中には、西方250mに位置する原馬室冠水橋の竣工を記念して1958（昭和33）年に建てられた記念碑が存在します。

碑文には、総工費256万円をかけ、1957（昭和32）年5月に延長56m、幅員3.6mの橋を竣工とあります。また、隣には水神宮が祀られています。

鋼製の流木除けのある冠水橋

冠水橋架設記念碑

コラム 冠水橋がかかる前の久下の渡し

冠水橋であった旧久下橋が架設される以前、久下と荒川の対岸の大里村とをつなぐ久下の渡しがありました。

江戸末期には久下村の有力者のあいだで渡船権の争いがおき、領主の判決に「以後も渡しは金兵衛に限る」の一声があって以来村人は金兵衛の渡しと呼んでいました。

明治維新後井口大助が父祖の業をつぎましたが維持費があがらず経営困難となり、市田村の木部又三によって渡しが行われました。1916（大正5）年再び久下村で渡すようになりましたが、1955（昭和30）年冠水橋が架けられたため渡船は中止されました。

久下の渡し冠水橋跡碑

アクセス

久下の渡し冠水橋跡碑

交通：高崎線「熊谷駅」下車、ゆうゆうバスさくら号「上之荘」行き、「久下熊久」下車

住所：埼玉県熊谷市久下

稲荷橋

交通：東武東上線「高坂駅」下車、車で約15分

住所：埼玉県東松山市下唐子

久下橋

稲荷橋

出典　東松山市HP／熊谷市「熊谷市史 通史編」／足立　恵一氏「冠水橋だった頃の笹目橋」